

金木犀の薫る季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

鱗雲が夕焼けに染まると、  
爽やかな秋風がスキを揺らします。  
香しい湯気がたなびいて、  
お供えの団子もできそうです。

今日もいい天気

今夜はまん丸なお月様を  
縁側から仰いでお月見です。

それでは今月もいってみましょう。

2025年10月

#### 【主な現象】

10月 6日	中秋の名月
10月 7日	満月（12時48分）
10月 8日	月が最近（21時38分）
10月 9日	10月りゅう座流星群が極大（4時）
10月 14日	下弦（半月）（3時13分）
10月 21日	新月（21時25分） オリオン座流星群が極大（21時）
10月 24日	月が最遠（8時30分）
10月 30日	上弦（半月）（1時21分） 水星が東方最大離角（7時02分）

#### 【解説】

- ★10月6日は中秋の名月でお月見です。
- ★10月りゅう座流星群（ジャコビニ流星群）は、10月05日ごろから10月13日ごろまで活動します。極大は10月09日04時で、出現数は1時間あたり5個程度です。フワフワとした感じで緩やかに流れるのが特徴です。  
極大時の月齢は17.0で、月の条件は最悪ですが、今年は母彗星が回帰したので要注意です。  
かつて13年毎に流星雨を降らせたので有名です。
- ★オリオン座流星群は、10月10日ごろから11月05日ごろまで活動します。極大は10月21日21時で、極大時の出現数は1時間あたり20個程度です。速くて痕を残す明るいものが多いのが特徴です。  
極大時の月齢は29.7で月の条件は、最良です。  
活動期間が長く極大のピークは高原状なので、極大日にこだわらずに天気の良い日に見る様にしましょう。
- ★土星の衝は過ぎていますが、22時ごろに南中と衝のころより早く高度が高くなるのと、まだほぼ一晩中見えるので見ごろです。  
環がほとんど無い串団子の様な様子を見ておきましょう。
- ★水星と火星が接近して見えるので夕方の低い空ですが探して見ましょう。
- ★土星と海王星が接近して見えます。土星を手がかりにして望遠鏡で探して見ましょう。

## 【観望案内】

### ★接近

- 10月06日 土星と月（月齢14.7）が宵に南東の空（10月07日 4時30分以前）で接近して見えます。  
見ごろは21時00分ごろでしょう。
- 10月14日 ポルックスと木星と月（月齢21.9）が夜半過ぎに東の空（10月13日22時50分以降）で接近して見えます。  
見ごろは2時00分ごろでしょう。
- ◎ 10月17日 レグルスと月（月齢25.0）が未明に東の空（1時40分以降）でかなり接近して見えます。  
見ごろは4時00分ごろでしょう。
- ◎ 10月20日 金星と細い月（月齢28.0）が明け方に東の地平線近く（4時30分以降）で接近して見えます。  
見ごろは5時30分ごろでしょう。
- △ 10月25日 アンタレスと月（月齢3.8）が夕方南西の地平線近く（18時30分以前）で接近して見えます。  
見ごろは17時30分ごろでしょう。

※ ◎：非常に接近するか、見た目が特にきれいだと思います。

○：見ておもしろいと思います。

△：高度が低かったり、薄明の中であったりで見にくいと思います。

但し、朝焼けや夕焼けと山の稜線も入れて写真にする等

意外とおもしろい可能性があります。

◇：双眼鏡や望遠鏡で見られます。

### ★日没

東京での日没は

10月 1日 17時25分

10月 8日 17時15分

10月15日 17時06分

10月22日 16時57分

ずいぶん日の暮れるのが早くなりました。

1日に約1分強の割合で早くなっていきます。

## ★今宵の空

日が暮れると（18時～19時ごろ）

夏の星座もまだ少し残っていますが、秋の星座もそろい始めています。

天頂付近 夏の大三角、はくちょう座、こぎつね座、や座

南の空

高 いるか座、こうま座、わし座

中 やぎ座、けんびきょう座

低 ぼうえんきょう座の一部、インディアン座の一部

南西の空

中 へび座（尾部）、南斗六星、いて座、へびつかい座

低 みなみのかんむり座、さそり座の一部

西の空

高 こと座

中 ヘルクレス座、かんむり座、へび座（頭部）

低 うしかい座

北西の空

中 りゅう座

低 北斗七星

北の空

高 ケフェウス座

中 こぐま座

低 おおぐま座の一部、きりん座

北東の空

高 とかげ座

中 カシオペヤ座

低 ペルセウス座

東の空

中 ペガスス座、アンドロメダ座、さんかく座、うお座

低 土星、おひつじ座の一部、くじら座の一部

南東の空

中 みずがめ座、みなみのうお座

低 つる座

## ★星のお話

みなみのうお座 [南魚]

設定者：プトレマイオス

P i s c i s A u s t r i n u s (P s A) 面積：245 平方度

《The Southern Fish》

みなみのうお座を見てみましょう。

起源は古く、古代バビロニアから魚となっています。みずがめ座の原形と考えられる「偉大なるもの」の壺から流れ出る水に泳ぐ姿は、

古代エジプト、古代ギリシア、現代とほぼ同じです。<sup>☆01)</sup>

アラトスの詩には「山羊の下方で南風の吹きすさぶその下に、魚が海の怪物の方へ向いて浮いているが、前述の二匹とは別個で、南の魚と呼ばれる。」<sup>☆02)</sup>と歌われています。

### \* 星の並び

ペガスス座の秋の四辺形が真上にくるころ、四辺形の西側の2つの星を結んで南の方に延ばしていくと、南の低い空に1つ明るく輝く1等星があります。これが、みなみのうお座のα フォーマルハウトです。

フォーマルハウト以外は4等星以下の暗い星ばかりで、都会では分かりませんが、空のよいところでは、フォーマルハウトから西に、頭と胸を作る台形の並びと、胸から胴を作るひし形の並びで、やや南向けに湾曲した太い流線型の様な形が、何となく魚を思わせる様に

見えます。この太い流線型の様な形は、フォーマルハウトから時計回りにα - ε - λ - η - θ - ς - μ - τ - β - γ - δ - α、と並んでいます。

フォーマルハウトが魚の口、太い流線型が魚の体になっていて、南側（下側）が背中、北側（上側）がお腹になります。胸びれや、尾びれは、想像の域といったところでしょう。

フォーマルハウト以外の胸や胴の星がはっきり見えたなら、かなり良い空です。星座絵では、アンコウの様なグロテスクな魚が大きな口を開けて、みずがめ座の瓶から流れ出た水をガブガブのんでいる姿になっています。

### \* 星の名前

αはフォーマルハウト「魚の口」<sup>☆03)</sup>（アラビア語のフム・アル・フートから来ている）<sup>☆04)</sup>

ディフダ・アワル<sup>☆05)</sup>「1番目のカエル」（アラビアでは、<sup>☆06)</sup>秋の四辺形の西側の辺を延ばして見つかるこの星を1番目のカエル<sup>☆06)</sup>、東側の辺を延ばして見つかるくじら座のβをディフダル・タニ<sup>☆05)</sup>（アル・ディフディ・アル・ターニー<sup>☆04)</sup>「2番目のカエル」<sup>☆06)</sup>）と見ていた。

という名前が付いています。

### \* 観望

有名な天体はありませんが、重星があります。

重星 β (5 cm 望遠鏡)<sup>☆07)</sup>

重星 γ (8 cm 望遠鏡)<sup>☆08)</sup>

### \* 補足

βは2重星で、口径5cm程度の望遠鏡でよく見えます。

γも2重星ですがもう少し口径の大きい望遠鏡が欲しいところです。<sup>☆07)</sup>

天の川から離れて星の少ないところ、すなわち銀河系のレンズ型の薄い方向なので、系外銀河が沢山見えますが、メシエ番号の付いた様な有名で、観望に適した銀河はありません。

$\alpha$  のフォーマルハウトまでの距離は 25 光年で、非常に近く、1 等星の中では、アル・リジル ( $\alpha$  ケンタウリ)、シリウス、プロキオン、アルタイルに次いで近い恒星です。☆<sup>06)</sup>

中国ではフォーマルハウトを「北落師門」(長安の城門の一つの名前)と呼んでいます。☆<sup>06)</sup>

#### \* 神話

ギリシア神話では、愛と美の女神アフロディテが化けた魚といわれています。この魚はうお座の話と重複しています。

ナイル川の辺で神々が酒盛りをしていた時(やぎ座のパーンの話と同様)突然巨大な怪物チュフォンが出てきたので、神々はあわてて逃げ出しましたが、その中いた、愛と美の女神アフロディテと、その子、エロスは魚に姿を変えて、川に飛び込んで逃げた時の姿という話です。☆<sup>09)</sup>

アフロディテとエロスが、ユーフラテス川の河原を歩いていた時

チュフォンが現れたという話もあります。☆<sup>10)</sup>

このアフロディテの化けた魚といいます。☆<sup>06)</sup>

また、うお座の魚の親ともいいます。☆<sup>06)</sup>

#### \* 世界の見方

日本では、フォーマルハウトが 1 つだけ明るく見える様子や、周囲の暗い星も含めて

「ひとつぼっさん」、「みなみのひとつぼしさま」、  
「ふなぼし」(船星)などと呼ばれていた様です。☆<sup>11)</sup>

☆01) 【星座神話の起源—古代メソポタミアの星座】 近藤二郎 誠文堂新光社】

☆02) 【アラトス「星辰譜」(ギリシア教訓叙事詩集)】 伊藤照夫訳 京都大学学術出版会】

☆03) 【カラ一天文百科】 小平桂一 監修 平凡社】

☆04) 【星の百科】 草下英明 社会思想社】

☆05) 【星座の秘密】 前川光 恒星社厚生閣】

☆06) 【星座手帖】 草下英明 社会思想社】

☆07) 【ほしざらの探訪】 山田卓 地人書館】

☆08) 【四季の天体観測】 中野繁 誠文堂新光社】

☆09) 【星の神話伝説集】 草下英明 教養文庫】

☆10) 【星座のはなし】 野尻抱影 筑摩書房】

☆11) 【日本の星】 野尻抱影 中央公論社】

## ★夜更けの空

夜が更けると（22時～23時ごろ）

秋の星座が勢ぞろいです。

天頂付 アンドロメダ座

南の空

高 土星、ペガスス座、うお座

中 ちょうこくしつ座

低 ほうおう座の一部、つる座の一部

南西の空

中 みずがめ座、やぎ座、みなみのうお座

低 けんびきょう座の一部

西の空

高 とかげ座

中 はくちょう座、こぎつね座、いるか座、こうま座、や座、こと座、わし座、夏の大三角

北西の空

低 ヘルクレス座の一部

北の空

高 カシオペヤ座、ケフェウス座

中 りゅう座、こぐま座、きりん座

低 おおぐま座の一部

北東の空

高 ペルセウス座

中 ぎょしゃ座

低 やまねこ座の一部

東の空

高 さんかく座、おひつじ座

中 おうし座、オリオン座

低 ふたご座

南東の空

高 くじら座

中 エリダヌス座、ろ座

## ★惑星

水星は、夕方南西の地平線近くに見えます。

10月30日が東方最大離角ですが、高度はあまり上がらず、日没時の高度が約10°しかありません。9月13日の外合を過ぎたところで徐々に高度を上げていきますが、高度の上がり方より南の方に寄っていく動きの方が大きく月末には真西より約40°南に見えます。

10月 1日は、17時58分に沈みます。

10月 8日は、17時56分に沈みます。

10月15日は、17時54分に沈みます。

10月22日は、17時53分に沈みます。

金星は、明け方東の低い空に見えます。

10月 1日は、3時39分に昇ります。

10月 8日は、3時54分に昇ります。

10月15日は、4時08分に昇ります。

10月22日は、4時22分に昇ります。

火星は、てんびん座にいて、夕方南西の低い空に見えます。

10月 1日は、18時38分に沈みます。

10月 8日は、18時24分に沈みます。

10月15日は、18時10分に沈みます。

10月22日は、17時58分に沈みます。

木星は、ふたご座にいて、未明に東の空に見えます。

10月 1日は、23時27分に昇り、6時38分に南中します。

10月 8日は、23時03分に昇り、6時14分に南中します。

10月15日は、22時39分に昇り、5時50分に南中します。

10月22日は、22時14分に昇り、5時24分に南中します。

土星は、みずがめ座にいて、夕方は南東の低い空、夜半前には南の空、未明には南西の低い空に見えます。

10月 1日は、22時54分に南中し、4時51分に沈みます。

10月 8日は、22時25分に南中し、4時21分に沈みます。

10月15日は、21時56分に南中し、3時51分に沈みます。

10月22日は、21時27分に南中し、3時22分に沈みます。

天王星は、おうし座にいて、未明に南の空にいます。

10月 1日は、19時51分に昇り、2時59分に南中します。

10月 8日は、19時23分に昇り、2時30分に南中します。

10月15日は、18時55分に昇り、2時02分に南中します。

10月22日は、18時27分に昇り、1時34分に南中します。

海王星は、うお座にいて夜半前に南の空にいます。

10月 1日は、23時03分に南中し、5時06分に沈みます。

10月 8日は、22時35分に南中し、4時37分に沈みます。

10月15日は、22時07分に南中し、4時09分に沈みます。

10月22日は、21時38分に南中し、3時41分に沈みます。

(出没の時刻は東京での目安です)

## 【スター紹介】

★M 7 5 ★N G C 6 8 6 4

いて座にある球状星団です。

距離は6.0万光年で、見かけの大きさは4.6' <sup>☆12)</sup>

で、我々の銀河系内の星団です。

銀河系内のメシエ番号が付いた<sup>☆13)</sup>球状星団の中で最も遠い球状星団です。<sup>☆13)</sup>

銀河系の直径は約10万光年で、我々の太陽系は銀河系の中心から

約3万光年のところにあるので、M 7 5 は、銀河系の中心を越えて

反対側にあることになります。

集中度が非常に高い(タイプI <sup>☆12)</sup>: 12段階の分類で最も高い)ので、

中央の塊が恒星状に見えて、なかなか球状星団と分かりません。

いて座の東端のやぎ座との境界線のところにありますが探す目安となる星が

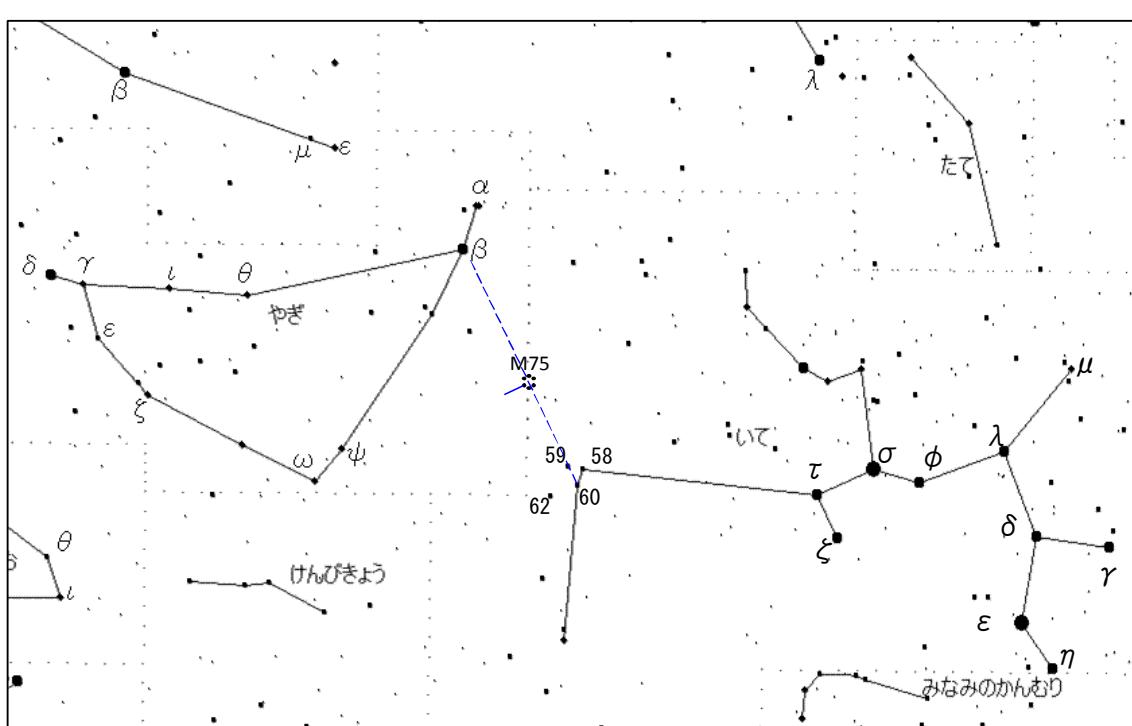
ほとんどありません。赤道儀式の望遠鏡なら目盛りを使って狙った方が

よいでしょう。

南斗六星の東の端の星 $\tau$ とやぎ座の南の端の星 $\omega$ の間に4つの5等星が  
歪んだ十字に並んでいるの(いて座60-59、58-62)を

見つけます。この歪んだ十字とやぎ座の頭の $\beta$ との中間に「く」の字形に  
並んだ3つの6等星があり、この3つの星の北東側にM 7 5 があります。

すぐ近くに7等星があるので、見比べて微妙に滲んでいたら間違いない  
でしょう。小型の双眼鏡や口径5cm程度の望遠鏡ではまず恒星と区別が  
つきません。口径10cm程度の望遠鏡でもわずかに滲んだ星雲状に  
見える程度です。それ以上の望遠鏡で見てもあまり変わらない様です。





M75 口径 13 cm にて撮影

☆13) 【メシエ天体アルバム 月刊天文ガイド別冊 下保茂 誠文堂新光社】

☆12) 【2009年 天文観測年表 天文観測年表編集委員会 編 地人書館】

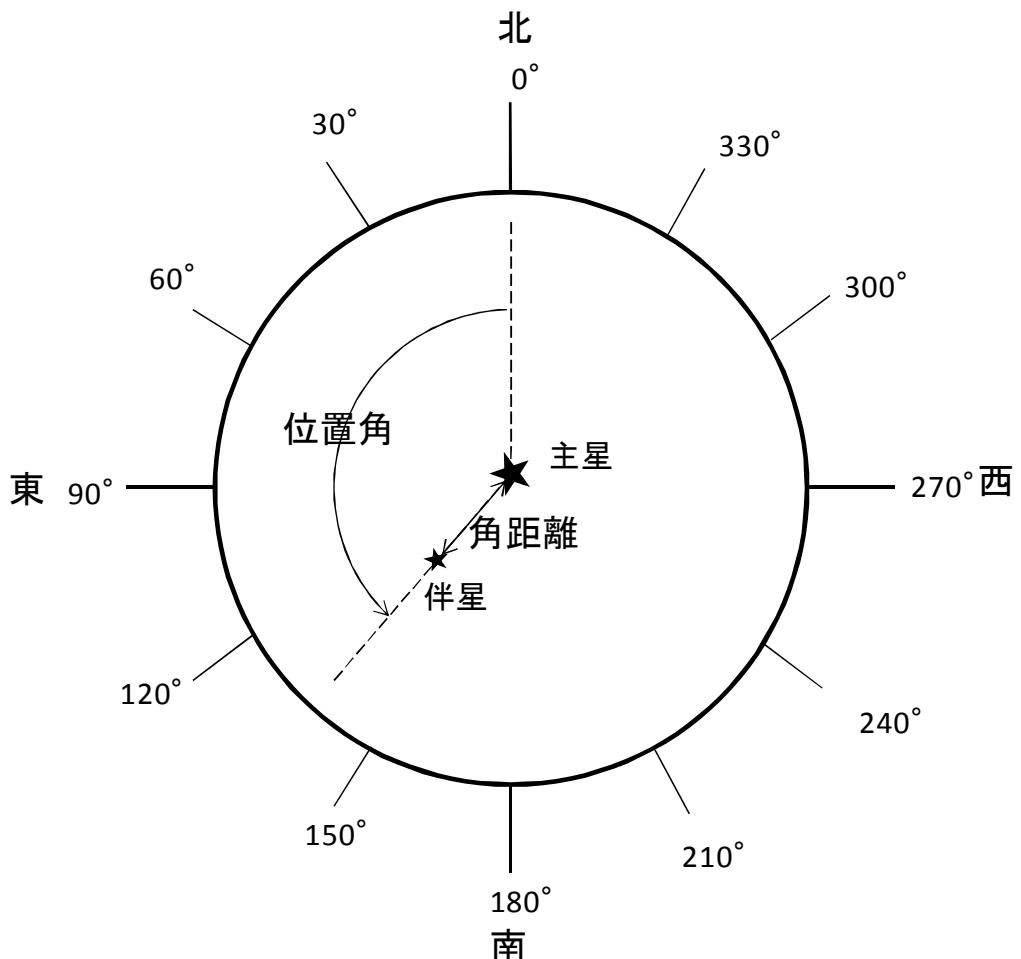
### 【まめ知識】

#### ★二重星の表し方★

二重星の位置関係を表す時「角距離」と「位置角」で表します。

角距離は2つの星の間の角度、位置角は主星を中心にして伴星の方向を北を0°として東回りに測ります。☆<sup>08)</sup>

しかし、望遠鏡で見ると多くの場合倒立しているのと、天頂プリズムを使うと裏返しに見えるので、見かけの東西南北の方向がややこしくなります。観測する場合は、自分が使用している望遠鏡の方式をよく確認しておきましょう。



☆08)【四季の天体観測】 中野繁 誠文堂新光社

それではまた。

#### 【参考文献】

- ☆01) 星座神話の起源—古代メソポタミアの星座 近藤二郎 誠文堂新光社
- ☆02) アラトス「星辰譜」(ギリシア教訓叙事詩集)  
伊藤照夫訳 京都大学学術出版会
- ☆03) カラーハンドブック 小平桂一 監修 平凡社
- ☆04) 星の百科 草下英明 社会思想社
- ☆05) 星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣
- ☆06) 星座手帖 草下英明 社会思想社
- ☆07) ほしざらの探訪 山田卓 地人書館
- ☆08) 四季の天体観測 中野繁 誠文堂新光社
- ☆09) 星の神話伝説集 草下英明 教養文庫
- ☆10) 星座のはなし 野尻抱影 筑摩書房
- ☆11) 日本の星 野尻抱影 中央公論社
- ☆13) メシエ天体アルバム 月刊天文ガイド別冊 下保茂 誠文堂新光社
- ☆12) 2009年 天文観測年表 天文観測年表編集委員会 編 地人書館